

船舶事故等調査報告書

平成23年3月31日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故等番号	2010横第119号	
事故等種類	衝突	
発生日時	平成22年4月29日 21時40分ごろ	
発生場所	千葉県富津市沖 浦賀水道航路第1号灯浮標南方3海里付近 (概位 北緯35°09.7′ 東経139°46.0′)	
事故等調査の経過	平成22年7月16日、本事故の調査を担当する主管調査官（横浜事務所）を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。	
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等	A 貨物船 ^{エヌワイケー オリンパス} N Y K OLYMPUS (パナマ共和国)、98,799トン 9312987 (IMO 番号)、OLYMPUS SHIPPING SA B 引船 第七東 ^{とうあ} 亜丸、162トン 127651、東京汽船株式会社	
乗組員等に関する情報	A 船長A、免状不詳 B 船長B、三級海技士（航海）	
死傷者等	なし	
損傷	A 左舷船尾部外板に塗膜剥離 B マスト頂部に曲損	
事故等の経過	A船は、浦賀水道航路南沖において、水先人を下船させるため、左転してリーサイド（風下舷）を作り、B船は、船長ほか3人が乗り組み、A船のリーサイドとなった左舷側に接舷して水先人をB船に移乗させた。 A船は、水先人の移乗を確認し、右舵一杯をとって原針路に復帰しようとしたところ、平成22年4月29日21時40分ごろ、A船の左舷船尾部とA船から離れようとしていたB船のマスト頂部とが衝突した。	
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 南西、風力 3	
分析	乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析	A あり B なし A なし B なし A なし B なし A船は、浦賀水道航路南沖において、水先人がB船に移乗した直後に原針路へ復する際、船長Aが、B船の状況を確認せずに右舵一杯をとったところ、船尾が左方に振れ、左舷船尾の至近にいたB船と衝突したものと考えられる。
原因	本事故は、夜間、A船が、浦賀水道航路南沖において、接舷したB船に水先人を移乗させた直後に原針路へ復する際、船長Aが、B船の状況を確認しなかったため、右舵一杯をとったところ、船尾が左方に振れ、左舷船尾の至近にいたB船と衝突したことにより発生したものと考えられる。	